

ラジオ日経「マーケット・テラス」

2026年4月14日



Copyright(c) 2025 by FISCO Ltd.

No part of this publication may be reproduced, stored in retrieval system, or transmitted in any means --- electronic, mechanical, photocopying, recording and otherwise --- without permission of FISCO Ltd.
This document provides an outline of a presentation and is incomplete without accompanying oral commentary and discussion.

時価総額: 191,430百万円、PER16.54倍、PBR0.89倍、ROE5.97%、配当利回り3.95%

■配当利回り4%超、PBR1倍割れ、新中計で株価の上値余地

- ・瞬間接着剤「アロンアルファ」で有名だが、モビリティ、半導体などにも絡む高機能化学メーカー。
- ・中期経営計画に基づき、2028年12月期で営業利益180億円、PBR1倍以上、ROE6.5%、2030年12月期で営業利益200億円以上、ROE8%程度を目指す。
- ・新中期経営計画のもとで株価の上値も期待でき、配当利回り4%台を下支えに、PBR1倍の回復は最低限の目標。

・瞬間接着剤「アロンアルファ」などの消費者向け製品から、高度な半導体製造プロセスに不可欠な高純度ガスまで、幅広い製品群を有する高機能化学メーカー。

・新中計ではモビリティ、半導体、メディカル、下水道老朽化対策を注力分野として成長を加速させる。

新中期経営計画の位置付け



企業理念

素材と機能の可能性を追求し、化学の力で新しい幸せをあなたへ届けます

2030年にめざす姿に向けて、「共創で未来を拓く」をスローガンに
2026年から2028年までの3年間の中期経営計画を策定



基本方針

2023 - 2025年度

Leap Forward to the Next 2025

新製品・新技術の開発力強化

海外売上高の拡大

持続可能な社会の実現に貢献

2026年 - 2028年度

Connect and Create 2028
(共創で未来を拓く)

1. 注力分野への積極的な開発と投資の継続
2. 既存事業のブラッシュアップと収益性の向上
3. 企業価値の向上と持続可能な価値創造

2030年にめざす姿

- No.1・Only1の高機能製品を群として保有し、社会課題の解決に貢献している。
- 積極的な成長投資、資本構成の最適化により、企業価値が向上している。

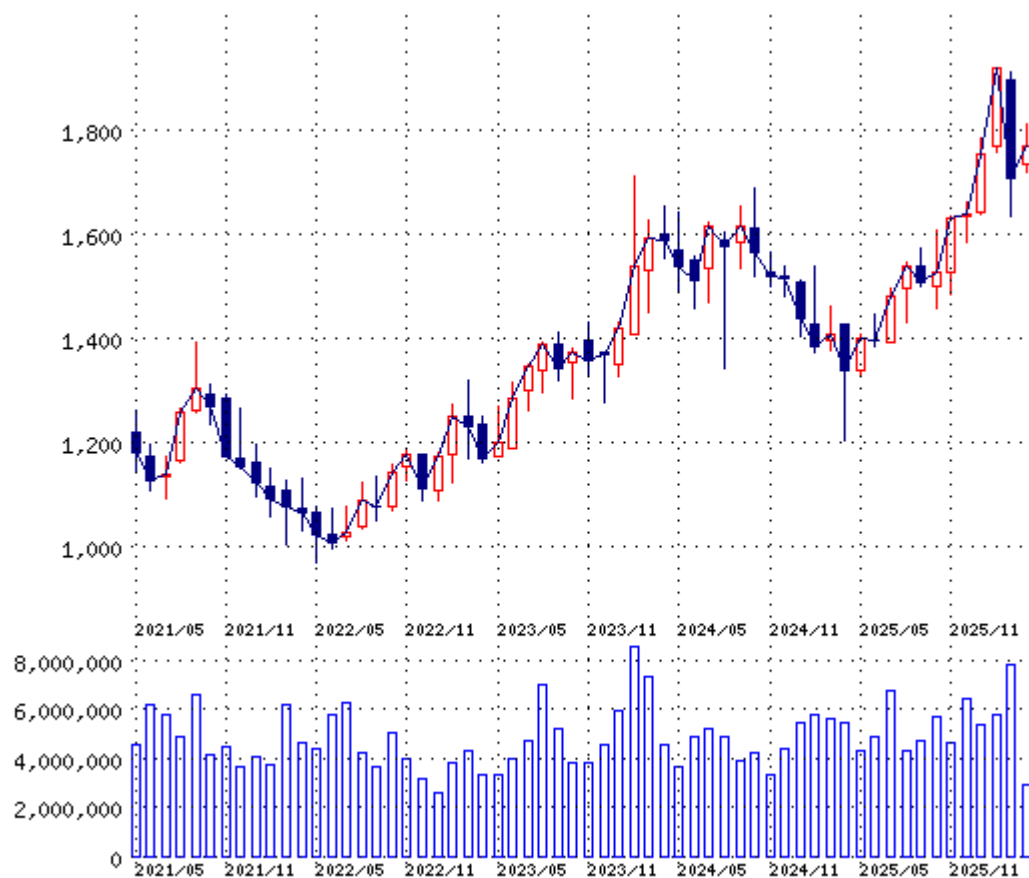
東亜合成(4045)業績推移

- ・足元の経済状況は不透明なもの、コスト削減や販売数量の増加、販売価格の適正化に継続的に取り組んでおり、今期は計画の達成に向けて着実な進捗を見せている。
- ・中期経営計画に基づき、2028年12月期で営業利益180億円、PBR1倍以上、ROE6.5%、2030年12月期で営業利益200億円以上、ROE8%程度を目指す。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
22.12期 連実	160,825	14,382	16,446	12,494	101.31	36.00
23.12期 連実	159,371	12,499	14,503	12,179	102.78	53.00
24.12期 連実	167,594	14,233	15,993	11,963	104.56	60.00
25.12期 連実	162,312	14,180	15,067	12,840	117.02	65.00
26.12期 連予	167,000	14,500	15,100	11,500	108.56	70.00

東亜合成(4045)月足チャート

- ・配当利回り4%台を下支えとして、新中期経営計画のもとで株価の上値も期待できる局面となっている。
- ・高いインカムゲインを得ながら、PBR1倍の回復は最低限の目標ということになる。



時価総額: 126,916百万円、PER13.60倍、PBR1.44倍、ROE9.62%、配当利回り4.44%

■法定需要に支えられる安定基盤、かつ利回り4%の高配当銘柄

- ・2019年に新興プランテックとJXエンジニアリングの経営統合により誕生したプラントメンテナンス大手。ENEOSホールディングスの持分法適用会社。
- ・ビジネスモデルの中核は、定期修理工事を軸とする受注型モデルであり、法定点検需要に支えられるため景気変動の影響を受けにくい点が特徴。
- ・大規模定期修理に必要な動員力を有する企業は国内でも限られており、これが高い参入障壁となっている。
- ・今期の注残高は前期実績および期初計画を上回る水準にある。
- ・アメリカのイラン攻撃に株価が反応している格好だが、業績は安定的で株価の反応は過剰に見え、高い株主還元により、押し目はチャンスに見える。

レイズネクスト(6379)ポイント

- ・ビジネスモデルの中核は、定期修理工事を軸とする受注型モデルであり、法定点検需要に支えられるため景気変動の影響を受けにくい点が特徴。
- ・大規模定期修理に必要な動員力を有する企業は国内でも限られており、これが高い参入障壁となっている。

コーポレートハイライト

ビジネスモデル



石油化学や一般化学、非鉄金属、電力、製紙など多業種のプラント施設の建設や保全、定期修理等を一手に手掛けている。完成工事高の**70%強**は既存施設のメンテナンスで占められており、**安定した収益を確保できる顧客基盤や技術**がある。

改造・改修

既存プラントの長寿命化や耐震性向上、能力増強を目的とした改造・改修を行う。

定期修理工事

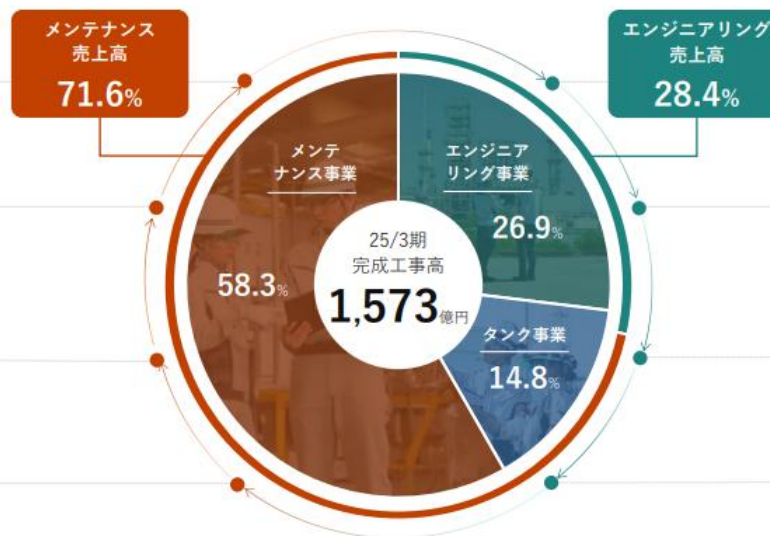
プラントを一定期間停止して全面的な整備を行い、基本計画から施工、検査業務まで実施する。

日常保全工事

技術スタッフがお客様のプラントに常駐し、日常的な点検・補修はもちろん、緊急工事にもスピーディーに対応する。

試運転

専門エンジニアが効率的かつ安全にお客様の試運転を支援する。



事業計画支援

プラントの新設や改造・補修にあたり、FS・FEEDを実施し、お客様の投資決定を支援する。

設計

メンテナンスの豊富な知見を活かし、建設後までを見据えたEPC(設計・調達・建設)を一貫して担う。

調達

品質、納期、価格など、お客様にとって最適な資機材調達をスムーズに行う。

建設

全国のネットワークと動員力、最新の管理手法を駆使した安全・品質・工程管理などを合理的に行う。



石油



石油化学



一般化学



医薬品



ガス



電力



製鉄



非鉄金属



食品



製紙

注：2025年3月期のメンテナンス・エンジニアリング以外の売上高は極小なため、事業別売上高構成比の算出は総完成工事高を母集団に算出している。
2026年3月期より収益規模が拡大しているタンク事業を新区分として切り出しているが、事業機会の安定性を表現するため、本スライドでは旧来の2区分も併記した。

© RAIZNEXT Corporation. All rights reserved.

出所：同社IR資料

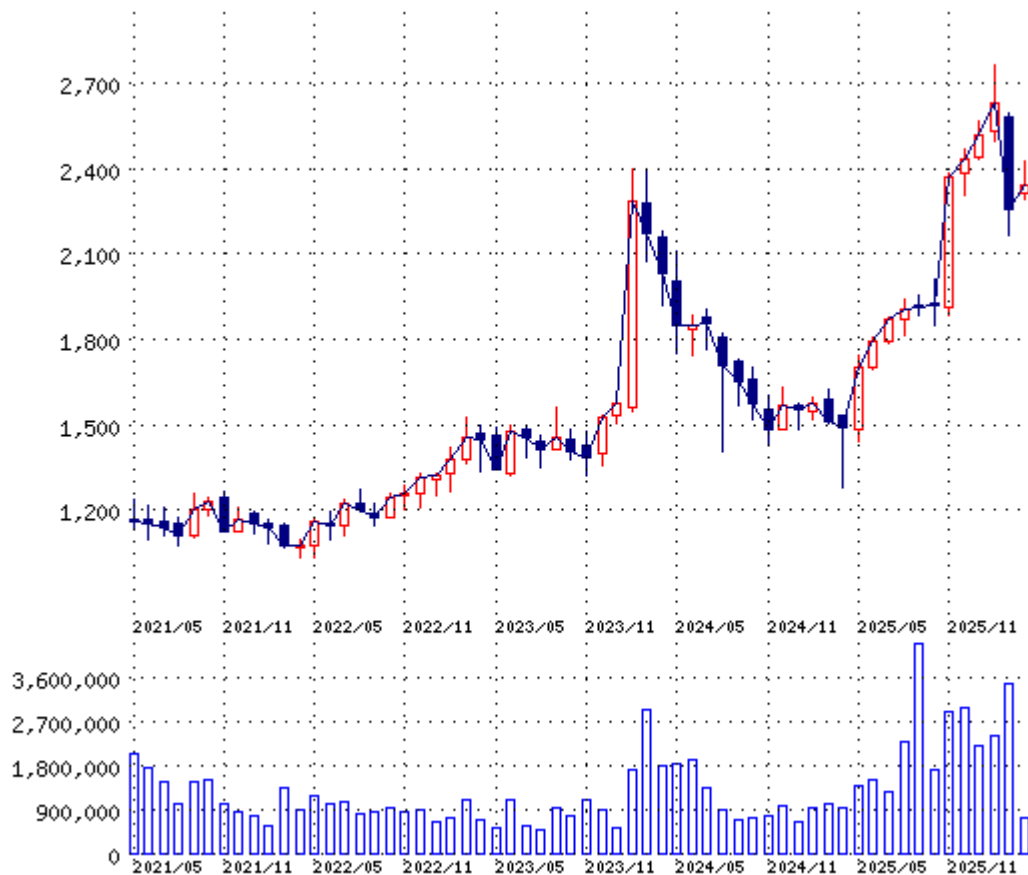
レイズネクスト(6379)業績推移

- ・今期の注残高は前期実績および期初計画を上回る水準にあり、一定の業績可視性が確保されている。
- ・リスク要因としては受注時期のズレや工事進捗の変動が挙げられるが、法定点検需要の安定性を背景に大きな下振れリスクは限定的とみられる。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
22.3期 連実	129,832	10,982	11,270	7,748	143.04	58.00
23.3期 連実	140,061	10,918	11,243	7,741	142.93	72.00
24.3期 連実	140,366	9,968	10,261	7,249	134.20	135.00
25.3期 連実	157,371	10,858	11,094	8,156	150.89	91.00
26.3期 連予	168,000	13,800	14,000	9,300	172.27	104.00

レイズネクスト(6379) 月足チャート

- ・アメリカのイラン攻撃に株価が反応している格好だが、業績は安定的で株価の反応は過剰に見える。
- ・高い配当利回りに加えて、2025年5月より株主優待制度を導入しており、押し目はチャンスとなる。



時価総額:5,216百万円、PER4.57倍、PBR0.45倍、ROE-%、配当利回り2.71%

■株価7倍も、意欲的な中計でPER4.6倍かつPBR0.4倍台は超割安水準

- ・長年培った多様な成形法と高度なプラスチック成形技術が武器。
- ・累進配当の導入により株主還元姿勢も明確化されており、PER4.6倍・PBR0.4倍台かつ配当利回り2.7%程度で推移するなか、2032年に向けた長期ビジョンの達成と、それに伴うさらなる企業価値向上に注目していきたい。
- ・足もと業績は上方修正。2032年3月期の創業100年をターゲットとした数値目標として連結売上高500億円以上、連結営業利益40億円以上、連結ROE12%以上を掲げている。
- ・中計達成が視野に入れば、マーケット平均となるPER15倍への切り上がりと利益の大幅増が掛け合わせり、時価総額で350億円を上回る可能性もある(現在52億円)。

- ・同社は長年培った多様な成形法と高度なプラスチック成形技術を武器に、差別化技術の拡販と効率生産の取り組みによる収益体質の強化と次世代領域への先行投資を着実に進めている。
- ・累進配当の導入により株主還元姿勢も明確化されており、PER4.6倍・PBR0.4倍台かつ配当利回り2.7%程度で推移するなか、2032年に向けた長期ビジョンの達成と、それに伴うさらなる企業価値向上に注目していきたい。

2032年3月期 数値目標



連結ROE（自己資本利益率）

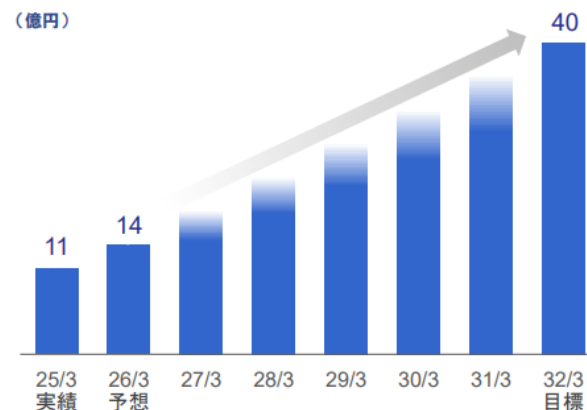
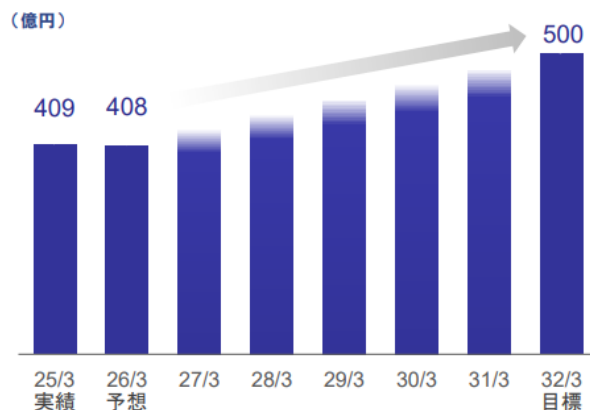
12%以上

連結売上高

500億円以上

連結営業利益

40億円以上



タカギセイコー(4242)業績推移

・売上高は海外のOA(その他)分野におけるノートパソコン用CFRP筐体部品の受注減少を見込むが、国内の車両分野における四輪、建設機械部品などの受注増加と前回の想定為替レートに対して円安で推移したことが寄与、今期予想は上方修正。

・2032年3月期の創業100年をターゲットとした数値目標として連結売上高500億円以上、連結営業利益40億円以上、連結ROE12%以上を掲げている。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
22.3期 連実	47,332	2,650	2,671	1,006	366.42	20.00
23.3期 連実	48,162	2,018	2,396	700	253.66	30.00
24.3期 連実	51,066	2,400	2,421	1,189	428.74	36.00
25.3期 連実	44,293	1,163	1,272	-2,802	-	40.00
26.3期 連予	41,340	1,820	2,030	1,130	404.43	50.00

タカギセイコー(4242) 月足チャート

・中計達成が視野に入れば、マーケット平均となるPER15倍への切り上がりと利益の大幅増が掛け合わせり、時価総額で350億円を上回る可能性もある(現在52億円)。



時価総額:80,356百万円、PER14.12倍、PBR0.97倍、ROE7.96%、配当利回り3.12%

■紙袋国内トップの総合パッケージ企業、意欲的な中計開示もPBR0.9倍台かつ配当利回り3%超

- ・手提げ紙袋で国内トップシェアを有するパッケージメーカーだが、紙器、段ボール、フィルム、不織布、周辺資材まで幅広く手掛ける総合パッケージ企業。
- ・幅広い製品を取り扱い顧客数も膨大、単一商材依存となっていないため、景気体制も強いディフェンシブ性の側面が強く、幅広い収益機会を取り込む構造。
- ・中期経営計画を開示している。2030年に売上高1,200億円、営業利益100億円、ROE8.0%以上維持10%を目指す方針を掲げている。
- ・着実な成長と意欲的な中計の一方で、PBRは1倍を割り込むなど、株価指標に割安感が目立つ。

ザ・パック(3950)ポイント

- ・手提げ紙袋で国内トップシェアを有するパッケージメーカーだが、紙器、段ボール、フィルム、不織布、周辺資材まで幅広く手掛ける総合パッケージ企業。
- ・幅広い製品を取り扱い顧客数も膨大、単一商材依存となっていないため、景気体制も強いディフェンシブ性の側面が強く、幅広い収益機会を取り込む構造。

成長戦略－施策－



複合販売とトータルソリューションの提供を成長ドライバーとした戦略的拡大

当社の強みや機会	成長戦略	施策	成長投資(350億円)					
			人的資本	インフラ	設備投資	省人化	システム	研究開発
紙袋 <ul style="list-style-type: none"> ・食品・EC・海外市場での底堅い需要 ・質の高い解決策を求める需要の広がり ・幅広いラインアップと高い供給能力 	<div style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 複合販売加速 ● 海外市場開拓 ● 新商品開発 ● 新規事業創出 <p style="text-align: center;">収益性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 付加価値最大化 ● メーカー機能強化 ● コスト最適化 ● 生産性向上 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食品・EC・小売市場で販路拡大 ■ 生産性・効率性の追求 ■ 海外市場に対し、人員・拠点増強による販売体制強化 	●	●		●		
紙器 <ul style="list-style-type: none"> ・食品市場での人手不足解消ニーズの広がり ・既存設備が活きる新市場の顕在化 ・豊富なノウハウやラインアップと開発力 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 流通加工事業を通じた紙器拡販の加速 ■ 水性フレキシ印刷機の活用範囲の拡大 ■ 食品一次容器の拡販 	●	●			●	●
段ボール <ul style="list-style-type: none"> ・EC市場での底堅い需要 ・輸送梱包における紙化・業務負担低減ニーズ 		<ul style="list-style-type: none"> ■ ECと輸送梱包分野での販路拡大 ■ 省人・省力化による生産性向上 ■ 既存顧客における複合販売の推進 	●	●	●	●		
化成品 <ul style="list-style-type: none"> ・外部環境の変化による参入機会の拡大 ・既存顧客における複合販売余地の顕在化 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 流通加工事業を通じた軟包装拡販の加速 ■ 水性フレキシ印刷機の活用範囲の拡大 ■ 低環境負荷素材や商品の開発推進 	●					●
その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップサービスのニーズ ・低環境負荷商品としての縫製品需要 ・印刷事業での未開拓領域の顕在化 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 物流・受発注システムの強化 ■ 顧客の業務負担軽減のサービス構築 ■ 印刷事業の新市場開拓 	●		●		●	

ザ・パック(3950)業績推移

- ・紙加工品事業を中心に、商品ラインアップ拡充と複合提案の効果により新市場開拓・シェアを伸ばして販売数量は増加を見込み、価格の適正化を推進して、かつ前期までの投資効果により生産性が向上、今期は増収増益予想。
- ・中期経営計画を開示している。2030年に売上高1,200億円、営業利益100億円、ROE8.0%以上維持10%を目指す方針を掲げている。

決算期	売上	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
22.12期 連実	89,060	5,972	6,353	4,058	213.55	65.00
23.12期 連実	97,714	7,743	8,063	5,652	297.07	90.00
24.12期 連実	101,461	8,009	8,285	6,316	333.52	118.00
25.12期 連実	103,125	7,207	7,532	6,024	107.13	80.00
26.12期 連予	106,000	7,500	7,700	5,300	95.35	42.00

ザ・パック(3950)月足チャート

- ・株価指標に割安感が目立つ。
- ・着実な成長と意欲的な中計の一方で、PBRは1倍を割り込む。
- ・3%超の配当利回りを下支え、株価は上値追いの展開となろう。

